

<b>平成 30 年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告</b>	【実践テーマ <キーワード>】
	がんについての正しい知識と認識を身に付け、 よりよい社会を築く。
	<キーワード> 家族のがん予防、異学年混合グループ協議
<b>中標津町立計根別学園（後期課程）</b>	
<b>学級数：6（3）学級 生徒数：41（6）人</b>	

## 1 はじめに

本校においては、これまで保健体育科保健分野「健康な生活と病気の予防」の指導の中で、常習的な喫煙により、肺がんや心臓病など様々な病気を起こしやすくなることについて学習するなど、「がん」に関わる内容を取り扱うとともに、第9学年においては「薬物乱用防止教室」を実施している。

生徒が「がん」に関する正しい知識や身近な病気であることなどを理解するとともに、命の大切さや自己の生き方について主体的に考えることができる生徒を育てることを目的とし、事業を推進することとした。

## 2 実践

### (1) 保健における基礎知識の定着（9学年）

#### ① 生活習慣と病気の関係を知る

生活習慣のチェックを行い、生活習慣病に関する理解を深めた。

#### ② 生活習慣病を予防する取組を考える

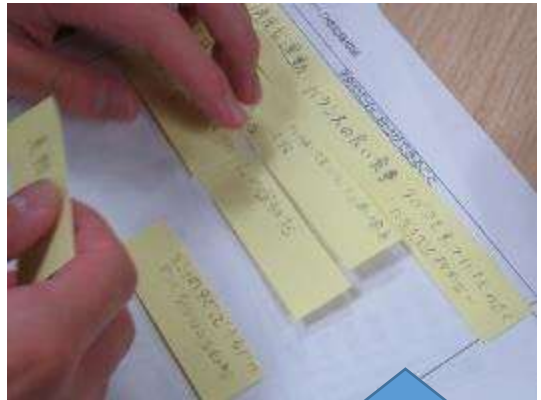
「適正体重を保つ」など、個人で取り組めることについて整理するとともに、和食のよさについて話し合う活動を行った。

#### ③ 喫煙が健康に及ぼす影響を考える

たばこの未成年者への影響や、常習的な喫煙によるがんのリスクなどの影響について理解した。

### (2) がん看護専門看護師による講話（7～9学年）

釧路労災病院がん看護専門看護師の門脇氏による講話では、がんの年齢別罹患リスクや累積リスク、予防法及び治療法などについて説明した後、自分や家族のがん予防に関わり、自分ができることについて、異学年混合グループによる協議を行った。



#### 【自分ができるがん予防】

- たばこは吸わない
- たばこを吸っている人の近くになるべく行かない
- 家族にがん検診を受けるよう呼びかける
- 適度に運動する など

### (3) 「がん患者との共生」を考える特別の教科道徳（9学年）

自作資料を読み、「自分のがんになってしまったら」「友達ががんになってしまったら」について考えるとともに、映像資料を見て、「がん患者が過ごしやすい社会」について協議を行った。

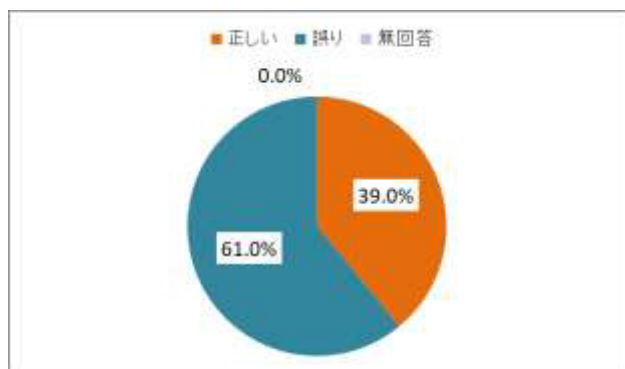
#### 【がん患者との共生について】

- がん患者さんに対しては、普段通り接していきたい
- もうがんばっているから、がんばれとは言わない など

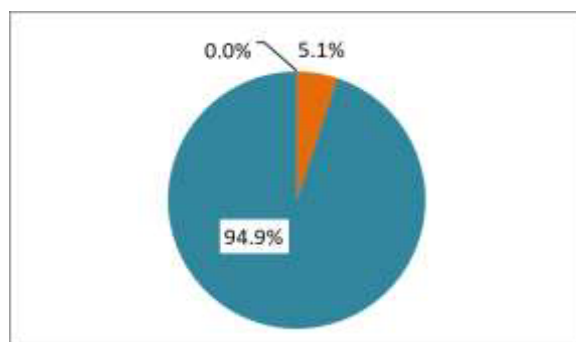
### 3 生徒アンケートの結果

○ がんは日本人の死因の第2位である。(誤り)

(実施前)

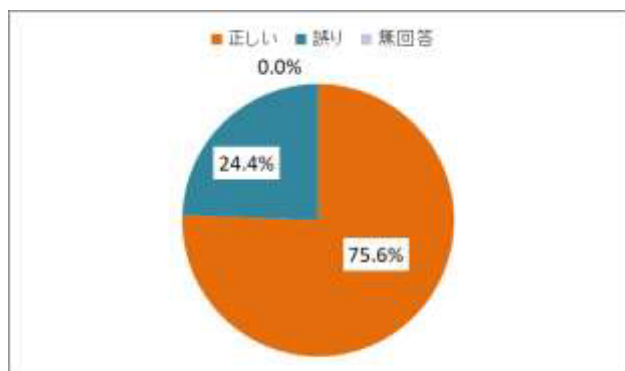


(実施後)

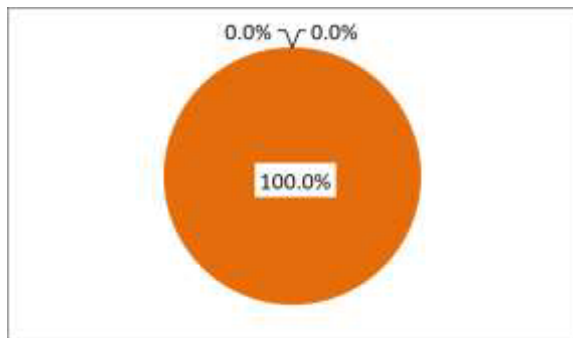


○ 早期発見すれば、がんは治りやすい。

(実施前)

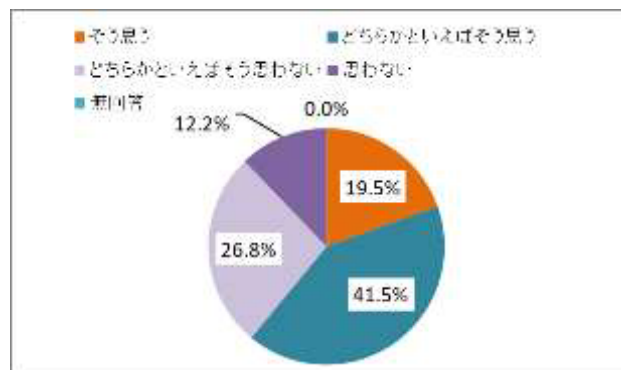


(実施後)

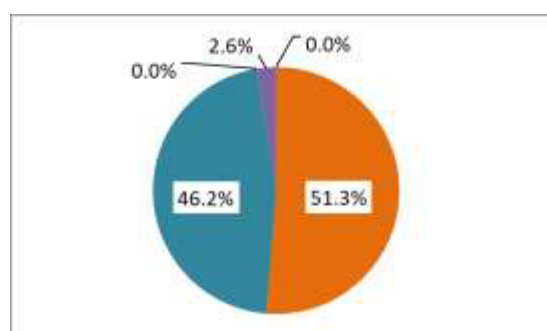


○ がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。

(実施前)



(実施後)



### 4 実践の成果と課題

○ 成果 ○

がんを含む生活習慣病の説明や外部講師による講話、自分や家族のがん予防についての演習を通して、生徒のがんに関する正しい知識の定着や家族の健康に対する意識の向上がみられた。

また、道徳の授業において「がん患者との共生」について学習したことにより、かけがえない命を大切に生きていこうとする気持ちが高まるとともに、がん患者に対する理解が深まった。

● 課題 ●

外部講師による講話のみを実施した学年は、「がん患者との共生」についての意識の向上がみられなかったことから、今後、がんを自分のこととして意識させるための工夫や、「がん患者との共生」を考える授業の実施が必要である。